

なお、藤堂勘解由家の系図その他は林泉氏の著書に拠らせて頂いている。世代数は同氏宅をお訪ねした時に所蔵の系図等をメモさせて頂き著述した。

主な参考資料

- 『藤堂藩功臣年表』、『元和先鋒録』 中村勝利校註三重県郷土資料刊行会
『宗国史』、『永保記事略』、『序書類編』 上野市古文獻刊行会編
『安政四年津藩分限帳』 堀井光次編 光書房刊
『津市史』 梅原三千著 津市役所
『藤堂姓諸家等家譜集』 林泉著
『大分県郷土史料集成』 垣本言雄編
『津藩名簿』、『佐伯正左衛門家由緒書』、『名張佐伯家由緒書』、『藤堂高次御代分限帳』、『藤堂高次御代絶家之大概』、『佐伯史談一五五・一五七号』 佐伯権之助風間、補記』その他等

表紙解説

天正使節伊東マンシヨの像

大分県庁前昭和通り交差点の近くに建てられている。大分市の中心地に位置しながら、この像の前に佇む人は希である。時代と共に変わり行く人の心とは云え、なにか心の片隅に寂しさを感じる。

478年前キリシタン大名大友義鎮（宗麟）・大村純忠・有馬晴信等がローマ教皇のもとに派遣した、少年使節正使伊東マンシヨ・千々石ミゲル・原マルチ・中浦ジュリアンの四名であった。天正十年長崎を出港マカオ・インド経由でリスボンを経て陸路でマドリードに行き、スペイン国王フェリッペに謁見、85年ローマに到着、教皇グレゴリウス13世とその後継者シクスツスノ5世に謁見した。その後各地を歴訪した後、天正一八年（一五九〇）帰国した。